■今月の特選句

2017年2月

ご祝儀を甘噛みしてる獅子頭　下嶋四万歩

「甘噛み」がいい。そりゃそうだ。獅子にとって楮三椏でできた萬札は格別の味なんだから。額が物足りないと、ガブリとやられるから用心用心。

これしきのことでは済まぬ女正月　加川すすむ

詳しい事情は分からんが、女衆が肝玉の小さい男どもに怪気炎をあげた。男が何かやらかしたに違いない。平身低頭、ともかく謝るに限るね。

消炭のやうな仲ねとまた燃ゆる　小林英昭

仲の良さを当事者が評論家みたいな口調で言うところが可笑しい。私達って消し炭やから、強烈には燃え上がらんけど長続きするのよねえ。

罠の餌盗んで猪の舌鼓　田中早苗

猪は頭がいい。何処を触ったら罠にかかるか学習してるんだね。餌を盗んで舌鼓とは癪に触る。今度こそとっ捕まえて、こちらが舌鼓と決意せよ。

歌留多とり死角の裾を糺しけり　柳　紅生

歌留多とりの名人ですな。死角の裾をいかにしてはだけさせるか。作為的と思われぬよう、焦点は裾に合わせても、目線はあくまで手札の方向へ。

人は人己は己雪は雪　越前春生

この句がなぜ可笑しいのか。「人は人」、「己は己」までは人間だが、突然、「雪は雪」ときた。常識人はその意外性にやられるわね。非常識、バンザイ。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の秀逸句　（・・・七七をつけてみました）

大寒や足袋も履かずに仁王さま　岡野　満
・・・木製やから霜焼け知らず

一日で国平らげる寒波かな　八塚一青
・・・トランプ寒波とでも名付けむ

手枕の手の冷たさや雪女　氏家頼一
・・・熱発のときだけにしとけよ

貧乏に暇を出す暇なく師走　小川飩太
・・・そなた貧乏の最高位じやん

残り香を深呼吸する春の闇　伊藤洋二
・・・そんな香は栄養にゃならん

訪ね来る子らの目的お年玉　井口夏子
・・・他に目的考えられる？

スキー服着れば誰もが一流に　井野ひろみ
・・・実力よりも見た目で勝負

福引のガラガラポンにもてなされ　稲葉純子
・・・ポケットティッシュ両手に溢る

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

暖冬に日焼してゐる雪女　伊藤浩睦
・・・雪も焦げれば黒くなるぞな

スケートは苦手と告げてしがみつき　麻生やよひ
・・・しがみつかれた方も苦手で

脳内にゆさぶりかける初句会　森岡香代子
・・・句会終えたる脳に穴ポコ

隅つこで膝の屈伸冬座敷　山本　賜
・・・周囲見回しでんぐり返し

息殺し袋綴ぢ開く文化の日　壽命秀次
・・・雑誌の隠し部屋を覗くや

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の滑稽句

	着ぶくれてどこにでもいる狸婆	青木輝子
	気を使い金を使ってクリスマス	青木輝子
【佳作】	シルバーの物の弾みの返り花	青木輝子
	冬雲に篦（やがら）をしかと日矢通す	青山桂一
【佳作】	舞落葉いづれどこかを臥処（ふしど）とす	青山桂一
	傘といふ字に似せ松を伐りにけり	青山桂一
	煤掃きの切手ベタベタ古はがき	赤瀬川至安
	漱石忌市民ホールに血圧計	赤瀬川至安
【佳作】	ことごとく左向きをり枯すすき	赤瀬川至安
【佳作】	似つかわしくないクリスマスのテロリスト	秋月裕子
	ひと言そえて心ふくらむ年賀状	秋月裕子
	明の春桝に波々鏡割り	秋月裕子
	散る落つは禁句湯島の探梅行	麻生やよひ
【佳作】	沈黙のいつときもなし女正月	麻生やよひ
【佳作】	断ち切れぬ煩悩いくつ除夜の鐘	井口夏子
	お多福の顔になりつつ三ケ日	井口夏子
【佳作】	汝湯豆腐四角四面で骨はなし	池田亮二
	開戦日三八銃の武勇伝	池田亮二
【佳作】	たとへれば轍の鮒の大晦日	伊藤浩睦
	天皇誕生日否月遅れの勤労感謝の日	伊藤浩睦
【佳作】	春めくや特売の日の主婦の籠	伊藤洋二
	仏滅の立春大吉の御札	伊藤洋二
	シベリアより帰らぬ人よ冬銀河	稲沢進一
【佳作】	立ち上がる前に「よいしょ」春炬燵	稲沢進一
	突然に無口の友よ息白し	稲沢進一

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】一グラムなれど賀状の重きかな　稲葉純子
初鏡自分を見つけルージュひく　稲葉純子

【佳作】会ひたいね会ふ当てもなし賀状書く　井野ひろみ
千円の合格祈願絵馬の揺る　井野ひろみ

ブラインドの隙間に初日寝坊して　上山美穂
足踏みをしている冬の交差点　上山美穂
【佳作】気をつけの姿勢の門松にお辞儀　上山美穂

【佳作】手も足も出さぬこけしや冬の朝　氏家頼一
クリップでぴしっと閉ぢし去年のこと　氏家頼一

【佳作】その鳥がなぜ鶏か干支の酉　梅岡菊子
年の瀬の夢の千金ジャンボくじ　梅岡菊子
見ざる聞かざる言はざる冬籠　梅岡菊子

破れ障子縫はぬまま子の育ち　越前春生
【佳作】山眠る寝かされて待つ歯科の椅子　越前春生

【佳作】赤鬼の千鳥足へと豆を撒く　岡野　満
探梅に出かけて爺の迷子かな　岡野　満

【佳作】地球てふ宇宙船にて初湯かな　小川飩太
煤逃げの逃げに逃げたり竜飛崎　小川飩太

【佳作】着ぐるみの父権綻び屠蘇の杯　加川すすむ
暖房車隣の夢を押し返す　加川すすむ

寒鯉の上目と合ひしよりの鬱　金澤　健
明日はまた凡樹に戻る聖樹かな　金澤　健
【佳作】元朝にごみを漁るも初鴉　金澤　健

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】	マンションの上下初泣き始まりぬ	川島智子
	おでんの具三角四角丸もあり	川島智子
	夫逝きて小さくなりぬ注連飾	川島智子
	初詣鬼手仏心の名外科医	久我正明
【佳作】	発熱の尻から魚骨初日の出	久我正明
	晩婚の夫の遺産はいと寒し	久我正明
【佳作】	うかうかと日に痩せて来しつるし柿	工藤泰子
	煤逃げの大権現の指巨き	工藤泰子
	避雷針付く煙突やクリスマス	工藤泰子
【佳作】	へそくりを見つけられさう煤払	桑田愛子
	滋姑（くわい）剥きクワイエットな厨かな	桑田愛子
	風花の行方は知らず陸奥の海	桑田愛子
	新婚のふたりにこたつ猫のぼせ	小林英昭
【佳作】	ゆるされぬ愛には枕屏風をく	小林英昭
【佳作】	マスクして優先席で死んだふり	下嶋四万歩
	歯固や翁と稚が並びゐて	下嶋四万歩
【佳作】	写真室に褒め語飛び交ふ七五三	壽命秀次
	初日の出カラスは生ゴミ先づ漁り	壽命秀次
	マスクして防犯カメラ摺り抜ける	白井道義
【佳作】	美辞麗句連ねすらすら初日記	白井道義
	着ぶくれて口八丁に徹しけり	白井道義
【佳作】	美容院予約の愛犬初詣	鈴鹿洋子
	自分史を思ひ返すや年の豆	鈴鹿洋子
	出勤する事もうないと思う霜の朝	鈴木和枝
【佳作】	冬陽台所にきて親しく話す	鈴木和枝
	台所が好き冬陽知らぬ間に来て座る	鈴木和枝

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	年末に電車に乗って社務所行く	鈴木哲也
	エプロンと習字道具で書初を	鈴木哲也
【佳作】	家族にて年越しそばを食べている	鈴木哲也
	正一位頭に木の葉乗せてから	髙田敏男
	下戸の夫薬と言われ生姜酒	髙田敏男
【佳作】	一〇〇号に出句忘れて懐手	髙田敏男
	犬猿の夫婦とり持つ婆酉年	高橋きのこ
【佳作】	暴れるもゴミを拾うも成人の日	高橋きのこ
	女子会の黒一点は鍋奉行	高橋きのこ
【佳作】	散り様が女の情念山茶花は	高橋ユミ子
	若水や点てたる抹茶の味深し	高橋ユミ子
	水仙の香りたどって海の道	高橋ユミ子
	ぶきようのぼくこままはしをみるだけ	田中　勇
【佳作】	うつかり踏みつけさうになる冬すみれ	田中　勇
	冬の虹人とは同化せぬなるぞ	田中　勇
【佳作】	トランプ氏切り札となり年の暮	田中早苗
	爺さんは炬燵のお守り婆柴刈り	田中早苗
	病院で薬と風邪をもらひけり	田村米生
	電飾にがんじがらめの冬木かな	田村米生
【佳作】	落ちてこそ存在感や寒椿	田村米生
【佳作】	すきま風空気清浄機となりぬ	津田このみ
	初夢は国内カジノで大儲け	津田このみ
	初夢を見る間もあらず爆睡す	津田このみ
【佳作】	駅ナカに胃散求める四日かな	都吐夢
	厳寒や巷に魔女風妖怪風	都吐夢
	数え日となっても鬼の笑い声	都吐夢

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	ほろ酔うて自販機で買ふ年酒かな	飛田正勝
【佳作】	初湯して老い確かめる下半身	飛田正勝
	夢で聞く齢になりし百八つ	飛田正勝
	我輩の縄張り示す木の葉髪	中井　勇
【佳作】	粉雪やはげた頭をスルーして	中井　勇
	北の風ここまで来たか塩の香が	中井　勇
	頬かむりして人類悪さばかりかな	新島里子
	焼いもに舌を焼かれてハヒフヘホ	新島里子
【佳作】	ごまめにも人に知られぬ嘆きあり	新島里子
	白鳥の踊り疲れて眠りけり	西をさむ
	厳寒の玄関きしと軋む音	西をさむ
【佳作】	節分や鬼より妻の恐ろしき	西をさむ
【佳作】	お飾りからつまみに変身スルメイカ	花岡直樹
	仕事から離れてしたや冬籠り	花岡直樹
	日本酒とビールでシェアするお屠蘇かな	花岡直樹
	梳るむかし昔や初鏡	原田　曄
【佳作】	マフラーに首のせ父の戻り来し	原田　曄
	炬燵中南京豆が止まらない	原田　曄
【佳作】	鳥食みと言へどたちまち食べ尽す	ひがし愛
	辣腕の野心も許し年忘る	ひがし愛
	ナマケモノ腕を骨折樹下に居り	ひがし愛
【佳作】	アーケードに人吸ひ込んで歳の市	久松久子
	年賀状どつこい生きてをりました	久松久子
	スマップの録画再生女正月	久松久子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	実印の朱の赤すぎる寒の入	日根野聖子
	御願奉候初詣	日根野聖子
【佳作】	飲みこめば固形物なる寒の水	日根野聖子
	掌にのせてみたしや雪の金閣寺	廣田弘子
	五七五言葉は弾む初句会	廣田弘子
【佳作】	初詣撞木に任せ鐘を打つ	廣田弘子
	初井水下戸口漱ぐ醸造主	藤岡蒼樹
	ポチのロピスケット呉る年賀客	藤岡蒼樹
【佳作】	印刷の賀状や義理の腐れ縁	藤岡蒼樹
	風花を一休みさせ乱れ髪	本門明男
【佳作】	解禁のカジノに無縁注連飾る	本門明男
	歳はもう充分かとも屠蘇祝ふ	本門明男
	湯の宿のロビィの畳歌留多とり	松井寿子
【佳作】	天使の輪ありやととはれゐる初湯	松井寿子
	走り出す道後の初湯の刻太鼓	松井寿子
【佳作】	師走妻途方に暮れてもまめまめし	松井まさし
	淑気浴びても浴びても伸びずしわの顔	松井まさし
	液晶に浮かぶ笑顔の雪女	松井まさし
	中吉をなぐさめられて初みくじ	南とんぼ
【佳作】	初夢のあなはづかしき目覚めです	南とんぼ
	女正月小皿並べて喜寿傘寿	南とんぼ
	獅子王の尻尾を踏めり開戦日	村松道夫
【佳作】	金食ひと呼ばれて久し松手入	村松道夫
	凍蝶の舞ふのをおそれ熊本城	村松道夫
	年賀状わが身励ます太き文字	百千草
【佳作】	逆上がり冬青空を蹴飛ばして	百千草
	置き去りし事のあれこれ去年今年	百千草

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】	筍の出世の秘密根コワーク	森岡香代子
	初雀きいろい声の鬼ごっこ	森岡香代子
	歯ぎしりのままに絶命してごまめ	八木　健
	明らかにこれは嫁が君の仕業	八木　健
【佳作】	多分あいつだ差出人の無い賀状	八木　健
	鮭色の石狩鍋や卓の華	八塚一青
【佳作】	だるまさん転んだような冬の滝	八塚一青
	喰積や腹に子飼ひの微生物	柳　紅生
【佳作】	隠し芸隠すままなり年惜しむ	柳　紅生
	終焉と思いし吾に春到来	柳澤京子
	緑内障失明寸前梅開花	柳澤京子
【佳作】	春キッスまなざし好きですフランス犬	柳澤京子
【佳作】	おとがひの外れかかるや寒稽古	柳村光寛
	初鶏の中の音痴や声高し	柳村光寛
	絵馬堂の誤字も大目の淑気かな	柳村光寛
	神の息かかりて光り氷面鏡（ひもかがみ）	山下正純
【佳作】	大の字の捺印奮発初スキー	山下正純
	実の締まりりんごの音の寂しかりけり	山下正純
【佳作】	冬深し一生懸命炊飯器	山本　賜
	持て余し冬日にかざすフラフープ	山本　賜
	盛り上がるトランプゲーム冬休み	横山喜三郎
	嫌はれし雪も観光資源なり	横山喜三郎
【佳作】	都会よりインフルエンザ手土産に	横山喜三郎

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。